



インドネシア

5 ダイヤコロッツ発電機器 修理センター修復事業

ジャワ中西部にある発電機器修理センターの整備等を行うことにより、修理品質の向上や収益の向上等を図り、もって同地域における電力の安定供給を通じ、経済成長に向けた基盤整備に寄与する。

承諾額/実行額	7億9,300万円／6億6,800万円
借款契約調印	1989年12月
借款契約条件	金利2.5%、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイト
貸付完了	1994年12月



外部評価者 藤野淳史 (株)コーエイ総合研究所
現地調査 2003年8月

評価結果

本事業では、ほぼ計画通りに修理センター工場の建設および改修、工作機械の設置、研修等が実施された。期間は、修理ニーズの変化等にあわせて調達する機器の調整を行ったため、計画を上回ったが、事業費はほぼ計画通りであった。本事業によって部品の加工可能サイズが大型化し、水力発電所への大型部品供給および修理への対応が可能となった。1998年にISO認証を取得して以来、体系的な品質管理を行っており、99年の返品率は0.25%、内部検査合格率は99%と、品質管理水準は高い。また、当初計画では本事業実施後の外部企業への外注時間を年間約4,000時間としていたが、98年の実績は824時間となり、内製化は計画を大幅に上回り、収益向上に寄与した。さらに、本事業は、国有電力企業(PLN)の効率的な電力設備供給体制を支援することで、約3,800万人の人口を有する西ジャワでの電力の安定供給に貢献し

ている。実施機関であるPLNの技術および体制面は問題ないが財政面は収益状況が厳しい。一方、本事業の実施当時にPLNの一部門であった修理センターは、インドネシア政府の電力セクター自由化によって独立採算事業部へと移行しつつあり、PLN外部も顧客対象とした積極的な営業活動によって収入は増加傾向にあるものの、今のところ継続して損失を計上しており、早期退職プログラムの実施等によって人件費圧縮を図っている。

第三者意見

本事業は、小さな規模ではあるが、機器修理を通じて効率的な電力供給に貢献している。本修理センターが独立採算となるためには、人材育成と適正な給与水準が鍵となる。

有識者 Mr. Mohamad Ikhsan

イリノイ大学博士課程修了(経済学)。現在インドネシア大学経済学部社会/経済研究学院研究員。専門は開発経済、マクロ経済、国際貿易など。

本事業で調達された工作機械と修理センター



大型旋盤



CNC旋盤



修理センター

本事業の実施により、加工可能サイズが大型化し、水力発電所への大型部品供給および修理への対応が可能となった。また、調達された工作機械により精密加工が可能となるなど、修理センターの修理・

生産品質は大幅に向上した。修理センターは、PLNの組織改編により、2001年よりチタルム生産工場へと内部での位置付けが変化している。同工場は、インドネシア全国をサービス対象としている。